第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（実践報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	データベースによる訪問診療支援システムの５年間の成果 ―　低予算（4 万円未満）で持続可能、電子カルテではできないフレキシブルシステム　―
演者名	山崎博史、枝久保安正、千場純
所属	三輪医院

目的

当院では当初、院長のみで訪問診療を行ってきたが、５年ほど前から在宅療養患者数が増えてきた為、複数の医師・看護師による訪問診療に移行した。これに伴い情報共有を必要とする情報が多くなった為、共有をスムーズに行うためにデータベース（以下ＤＢ）で「患者基本情報システム」を構築した。

実践内容

クリニック故、多額な IT 投資は行えない。そこで、安価なＤＢソフトであるファイルメーカーを使うことにした。最初は患者基本情報の整備から行い、次に主治医意見書等の書類を入力できるようにした。また訪問診療後は適宜必要な情報を医事のスタッフが入力した。院長は、他の医師が更新した内容を確認し、必要であれば補足事項を入力し他の医師との情報を共有している。またタブレットでもデータを閲覧することができ、訪問途中や出先からの急な問い合わせにも対応できるようにした。

実践効果

１）現在、院長以外に非常勤の医師６名が訪問診療を行っているが、当ＤＢを使用する事により、直前の患者の状態を把握する事ができ、滞りのない診療に役立っている。また、院長も他の医師が入力した情報により全患者の状態を把握することができ、適宜、他の医師、及び看護師に必要な指示やアドバイスを行うことができるようになった。

２）各種書類以外にも、在宅療養前の情報、家族構成、患者の死生観、食事の好みや趣味など患者の全人的な情報を入力しており、これらのデータを元にレトロスペクティブな統計解析も行えるようになり、適宜医師会等で発表できるようになった。

３）様々な角度から患者をみる事により、より患者側に立った医療を目指せるようになった。

考察

制度や地域の環境が刻々と変わる中で、既存の電子カルテや既成のソフトウェアでは対応できない情報も、手作りのＤＢでは適宜追加する事ができた。今後、連携している医療機関にも紹介し、情報共有の輪を広げて行きたい。